

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013
法人名	社会福祉法人友和会
事業所名	グループホームピアポート千寿苑
所在地	千葉市中央区問屋町6-4
自己評価作成日	令和 7年 1月 10日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和7年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方らしい生活の実現を目指し、生活歴や現在の意向をもとに馴染みの環境の中で安心して生活を送れるよう支援させていただいています。積極的な関わりを持つことで信頼関係をより深め、利用者様をよく知ること、望む生活に近づけるよう心がけています。館内はバリアフリーで車いすでも安全に移動等ができ、また訪問看護ステーションとも連携を図っている為、ご希望があれば最期まで慣れた環境でお過ごしいただけます。まだ若干の制限は残るものの、ご家族様と直接面会する機会や行事・散歩等で外出する機会も増えました。以前実施していた保育園との交流再開には至っていませんが、他事業所の演芸ボランティアの方の鑑賞や地域の方への地域交流室開放等少しずつ回復してきており、今後も感染症の動向や社会情勢等を見ながら、地域とのつながりを意識し、できる限りご本人の希望に沿った生活が継続できるよう支援してきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

若い経験豊富な二人の管理者が2ユニットを連携を取りながら管理運営している。施設は清潔感にあふれ落ち着いた雰囲気である。コロナ禍以降、地域等との交流がなかなか進まない現状ではあるが、面会制限条件を緩和して、家族等が面会しやすい様に配慮している。家族に対しては利用者一人ひとりの生き生きとした様子を記載したお知らせを毎月郵送し、併せて施設の情報誌も送付している。食事レクリエーションも利用者の希望を取り入れ、柔軟に対応している。利用者・家族アンケートには「管理運営がしっかりしている、職員が親切で明るい、医療体制が整っている」などの意見もあり、利用者・家族の施設への信頼感が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 社会福祉法人友和会	「いつも馴染みの環境でゆったりと楽しく、その人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」を理念に、各ユニット玄関付近に掲示し、職員間の共有を図っている。また入職の際等に周知している。	理念を各ユニットの目につきやすい場所に掲示し、その周りには利用者の生き生きした写真を掲示し、理念の実現に職員は務めている。	
2	(2)	グループホームピアポート千寿苑 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児との交流を実施しているが、コロナ禍においては中止している。地域の方に地域交流室を開放したり、外出やボランティアの受け入れについては感染状況が落ち着いてからは実施している。コロナ前と比較すると地域との関わりは希薄になっている。	コロナ禍前は近隣の保育園や地域との交流が行われていたが、外部との交流再開は進んでいない。特養、デイサービス等との複合施設のため、当ホーム単独の外部との交流を進めることも容易ではない。	これまであった交流を再開するためには外部への働きかけをこちらから進めていく必要がある。一階のカフェも外部との交流を進める場所として活用を検討してはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症が5類へ移行したことに伴い、少しずつ外出や外食、散歩等で地域へ出かけるようになった。地域の方との挨拶やふれあいを通して認知症の状態の方への理解を深めて頂いているがコロナ禍以前と比較すると頻度は少ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度も昨年同様の参加者にて開催した。ご家族様の面会が制限解除されていることもあり、次年度以降はご家族様等含め実施したい。	定期的に運営推進会議は実施されているが、参加メンバーが限られている。一部の家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、年間6回以上開催し、運営状況、利用者の暮らしぶり、ヒヤリハット等を説明し、参加者から意見を伺い、運営に活かしている。	面会制限が解除されたこともあり、より多くの家族、従来参加頂いていた地域の方(自治会長、など)にも参加を呼びかけて、情報発信と地域との交流を拡大される事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所としてもグループホーム連絡会の窓口としても、必要な連絡等を実施し連携を図れるように努めている。また必要な情報収集・提供、行政からの情報周知のお手伝い等小まめに行うようにしている。	事業所は千葉市グループホーム連絡会の中心的役割を果たしている。毎年当施設で実施する連絡会総会では市からの挨拶もある。市からの問い合わせや情報交換は積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置・開催、施設内研修やミーティング等で身体拘束廃止について理解を深めたり、身体拘束を行わないケア方法について話し合っている。ユニットや施設は施錠されず出入りが自由にできる為、他事業所にも資料を配布する等し全体での見守りに努めている。	身体拘束は行っておらず、委員会の設置・開催・施設内の研修など積極的に取り組んでいる。2ユニット間だけでなく、同一ビルにある系列の特養、デイサービス等と、利用者は自由に出入りできるよう施錠もせず、他の施設との連携がとれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置・開催、施設内研修等を行い学び機会を設けている。お互いに指摘しあえる環境作りに努める他、入館・面会制限にて外部の目が入りにくい等重なっている為、不適切なケアに繋がらないよう、職員同士で確認している。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容の理解や活用方法等は把握できるように努めている。現在既に制度を利用されている方他に必要と思われる方はいらっしやらないが、必要となる可能性のある方には制度についてのご案内を行い、資料作成の協力依頼のある場合はお受けするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には面談やお電話等でご説明やご相談のできる機会を設けている。また制度改正や入居中の疑問や不安等の場合は、電話、メール等でもご説明に努めている。申し込み時、契約前に見学希望のある際は感染対策を実施しながらできるだけ実施できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見を聞きながら生活や行事等の企画運営を行っている。今年度はある程度面会制限が緩和となったこともあり、ご家族様への日常の様子のご報告やお話を伺う等、話しやすい関係作りに努めた。	毎年外部評価を受け、利用者や家族の意見を参考にして運営の改善に努めている。また行事開催時には利用者の希望を聞きながら実施している。家族の要望・意向でもあった面会の制限条件も緩和されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や要望のあった際は、管理者より理事長や各担当者に話をし、伝えるようにしている。管理者も面談の他、日頃から職員と積極的に話す機会を作り、意見や提案、改善策等のある場合にすぐに言いやすい関係作りに努めている。	話しやすい環境を整えるために、管理者は、職員に話しかけ、積極的なコミュニケーションが出来るホーム作りに努力している。職員会議や日々の打ち合わせにおいて、職員から重要課題や提案等があった場合は理事長にも伝え改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理型の職員育成を実施し、目標の達成度が次年度の給与に反映される為、職員が明確な目標を持って働ける仕組みとなっている。仕事に対する姿勢や実績、努力と結果等自己評価と管理者から見た状況を施設長等へ報告し、把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力や年度目標を把握し、希望があれば勤務の中で研修に参加できるよう調整している。コロナの影響で外部研修の機会も少ないものの徐々に参加回数を増やしながら、施設内での研修を主に実施している。職員の入職等の際は研修、面談、OJT等を実施し育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徐々に対面での研修等も実施があり、電話や、少ないながらも対面での情報共有、施設運営にあたっての工夫等助言をいただく等、度々交流の機会を設けられた。また研修やオンラインを通じ、他事業所の方と交流を図ることができた。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業者から情報を収集し、入居前の生活の様子を知ることによって出来る限り生活が継続できるよう配慮している。また早く慣れていただけるよう、職員から積極的に関わる等支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、ご家族のみでお話する機会を設け、ご家族の心配事や要望等を話しやすい環境整備を行っている。現在詳細な見学ができない為、パンフレットやお便り等写真を用いる等して分かりやすい説明を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際、困り事や不安をお伺いし、必要に応じ他のサービス申込も含めお話をさせていただいている。入居後の生活支援についてもご本人やご家族様から他のサービス利用のご希望がある場合は、できるだけご希望に沿えるよう他事業所と調整をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を一緒に行ったり、行事や企画の際に利用者様に意見を聞き実施する等で、できる範囲で相談したり協力をいただきながら、暮らしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが5類に移行となったことで、面会制限が解除された為、ご家族と直接対面し関わりを持つ機会が増えている。また援助方針等と一緒に考えながらご本人を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類に移行となったことで、面会制限が解除され、ご家族様や馴染みの方と直接対面し関わりを持つ機会が増えている。	面会条件の緩和により、居室での面会が出来る様になり、家族とのコミュニケーションも増え、利用者本人の笑顔も見られるようになった。長引いた感染症により、利用者にとって此处(ホーム)が馴染みの場所になっているが、以前からの交流関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身から日常的にご一緒に過ごされる方もいるが、その他でも入居者同士の関係を把握し、気の合う方と食事の席を近くにしたり、一緒に行事に参加して頂く等、利用者同士がコミュニケーションをとりやすい環境作りに努めている。話す事が難しかったり耳の遠い方でも職員が間に入りコミュニケーションが図れるようにしている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった場合も、その後のご本人様やご家族の生活について相談し、関係機関との調整を図っている。ご逝去された場合でも可能であれば葬儀への参列をし、故人を偲ぶ機会を持てるようにしている。退居後も来苑し近況をお話して下さる方もおり、良好な関係を維持できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者とは積極的に関わりをもち、言語での意思表示が可能な方については、積極的に話を伺い、できる限りご本人の意向に沿ったケアを提供できるようにしている。難しい方については、日頃からの表情や言動、仕草や変化、ご家族からの聞き取り等でご本人の希望や意向をくみ取れるようにしている。	自分の思いを言葉にできない方は表情や仕草からくみ取りケアに臨んでいる。職員は利用者のモチベーションを上げるよう明るい話題でコミュニケーションを取るよう心掛け、毎日が心地よく過ごせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前やご自宅で過ごされていた際の生活の様子について、ご本人様やご家族様、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業者からお話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でアセスメントを行い、現状の把握に努めている。普段と違う様子が見られる際は、連絡ノートやミーティング、毎日の申し送りを活用して、職員同士で情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の利用者様との関わりや、ご家族にお話を伺う等し、ご本人・ご家族の意向をくみ取るようにしている。職員間でも連絡ノートや毎日の申し送りを活用して、職員同士で情報を共有できるようにしている。	介護計画のアセスメント、モニタリングは介護支援専門員が行い、本人、家族の意向を聞き作成している。様態に変化が見られた時はケアカンファレンスで話し合い、適宜見直している。本人・家族への説明も丁寧に行い、情報は共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケース記録、食事・排泄記録として個別に記録している。情報の把握や共有、また介護計画作成時やモニタリングの際のツールとして活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在訪問のボランティア等の受入を再開していないため、訪問リハビリや専門外来の往診を利用したり、その他現状の取り決めの中で実施可能なことを検討し、ニーズに対応できるよう努めた。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以来、地域の保育園との直接交流は実施できていない。外出の制限が解除となった為、近隣への買い物や散歩、外食等、出かけられることが増えてきている。また希望に応じて随時買い物へ出かける等、地域資源を活用しながら希望に沿った生活に近づけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族との話し合いにて決めていただいている。嘱託医へ主治医を変更する場合も、診療情報提供書をいただき、スムーズに移行できるようにしている。受診時は基本的にご家族の付き添いとなるが、情報提供や職員も同行する等し、ご家族様と共に状況を把握できるようにしている。	入居後のかかりつけ医の選択は本人・家族の意向で決めている。病院受診は家族が付き添うが通院支援も行い、情報は共有されている。24時間対応可能な医療連携の体制があり、本人・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来苑し、健康チェックや医療的な処置をして下さっている。不調の際は電話で連絡し、訪問や医療的な助言を受けている。ご家族様との相談も行い、急変時や終末期、受診前後の対応や助言をいただく等連携が図れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には地域生活連携シートや看護サマリー等を提出し、これまでの生活を適切に伝えられるようにしている。退院後の対応や時期、目安等についてもご家族や医療ソーシャルワーカーを通じ、医師・看護師とも連携して退院後の生活を支えられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化された場合の対応を説明し、現状における看取りに関する意向を伺っている。体調に大きな変化があった際や看取り期となった場合には、ご家族に現状や今後予測される症状、施設にできること・できないこと、日常生活の過ごし方等具体的に小まめに話し合い、できる限り思いに沿った支援ができるようにしている。	重度化や終末期に向けた施設の対応方針を入居時に説明し、本人・家族の希望や意向を聞いている。今までの看取りの経験から、関係者と話し合いを重ね、思いに寄り添った支援ができるよう医療と家族、関係者がチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で急変時の対応についてマニュアルをもとに話し合ったり、予測し得る状況の対応について訪問看護師に助言をいただく等し、発生した場合に備えている。一日を通じ事業所に職員一人ということはない為、判断に迷った際は他職員に相談したり、訪問看護師に連絡して指示を仰ぐ等し、対応している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染症予防に配慮しながら同一建物内の事業所と訓練を実施している。訓練は火災想定となっている為、津波発生時の対応や水害・土砂災害に対応した非常災害対策計画を作成・調整している。またBCPも他部署と調整しながら作成した。	今年度は感染症のゾーニング訓練実施研修を連携施設と行い危機管理対策、緊急時の連絡網、BCPも作成済みである。食材、水は各ユニットに3日分用意し、日用品は倉庫に備蓄され、連携施設との協力体制もできている。3月には避難訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状態が変わった方、新しく入居された方等、背景も含めそれぞれの利用者様を知ること、声掛けを工夫している。排泄や入浴介助の際も自尊心やプライバシーに配慮した声掛けを心がけている。	一人ひとりの尊厳を大切にし、プライバシーに配慮した声掛けと誘導を行っている。接遇マナー、職業倫理の研修を行いケアに臨んでいる。意思表示の難しい方には表情や仕草から読み取り安心できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の際洋服を選んでもらったり、選択のできる方には分かりやすい言葉で具体的な選択肢を出し、選べるようにしている。また普段から良く話や希望を聞いたり、変化を観察することで利用者様の意向を生活に反映できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示の出来る方には、入浴や食事等希望を伺いながら対応している。食事の時間等変更が難しい点もあるが、代替食を用意しておく等、出来る限り臨機応変にその方の生活リズムやペースにあった生活が送れるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れていたり、起床・就寝時には更衣をする等、清潔な洋服を着用していただけるようにしている。選べる方には一緒に選んでいただいたり、理髪や髪の毛を丁寧に整える等、その人らしい身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で用意していただける為、料理レクの実施や日頃の配下膳、片付け等は一緒に出来る方と行っている。また外食や苑内で季節感のあるものを調理し味わう等の企画も実施した。その他個人にあった嗜好品を用意する等、食事が楽しみとなるよう工夫している。	併設の厨房からの副食と各ユニットで用意した主食とみそ汁を利用者の健康状態に合わせて提供されている。料理レクリエーションでおやつ作りや季節の行事を皆で楽しみ、口から食べる喜びを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調やご本人の状態、これまでの習慣を考慮して、食事の形態や時間を変えたり、好きな飲み物や嗜好品を提供する等、一日を通して必要な水分や食事摂取ができるよう看護師や栄養士も含め相談し、職員同士で連携しながら提供している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った声掛けや方法で、歯ブラシや歯磨きティッシュを使用し、口腔ケアを実施している。入れ歯や残歯の手入れ等難しい部分は介助を行ったり、歯科往診も活用しながら清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレにて排泄できるよう、利用者様の排泄パターンを知り、トイレにて声掛けや介助を行っている。生活リズムや様子の変化、ちょっとしたサインへの気づき、羞恥心へ配慮し、必要な部分のみ介助や声掛けを行う等工夫している。	日中は排泄パターンを把握し、周囲へ配慮した声掛けでトイレでの排泄の自立を支援をしている。夜間はセンサーの使用と職員が声掛け誘導や補助して安全に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類や水分を多く摂っていただき、体を動かすことで排泄が促されるようにしている。便秘がちな方に対しては、乳製品やオリゴ糖などの摂取を試してみたり、看護師や管理栄養士とも相談しながら下剤のみに頼らない対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は決まっているものの、本人の希望にあわせ曜日や時間をずらし対応している。個々の入浴方法に合わせた支援や会話、ペース等、ゆっくり、また安全に入っているように、準備や見守り・介助を実施している。	本人の希望や体調に合わせて週2～3回入浴できている。入浴時間の長い方もいるが楽しく会話し、ゆったり入れるよう支援している。入浴拒否の方には決して無理強いせず、対応者を変えたりその気になるまで待つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の寝具を持参していただいたり、清潔保持・照明や室温等の環境整備に努めている。また入床の時間も個々の生活ペースにあわせ、眠れない様子が見られるようであれば声掛けや一緒に過ごす等し、落ち着いて休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明を読み、効能や特徴等の把握に努めている。変更等があった場合には、服薬前後の本人の状態を観察し、看護師とも情報を共有している。また誤薬のないよう、チェック表を作成し二人以上で確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には家事活動のお手伝いをしていたり、役割が持てるようにしており、主体的に参加される様子もある。外出や買い物、調理レクや季節の行事等企画・実施し、楽しみや気分転換の機会がもてるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食、散歩や買い物の支援も実施できるようになった。ご本人の希望を聞きながら計画、実施している。またご家族様の希望があればご家族様との外出もしていただき、楽しみが持てるよう努めている。	利用者の希望を聞きドライブに出掛けたり、家族と一緒に外出される方もいる。普段の散歩や買い物には少人数で出かけているがご家族アンケートではもっと外出を増やして欲しいとの希望も見られた。その対策として、管理者は今後も家族と協力して、外出できるよう支援していく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多い為、基本的には預かり金として保管しているが、欲しい物があったり、本人から申し出があった場合には、預かり金を出してもらい、使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方の操作代行や、電話の取次ぎ等を行っている。希望のある際は電話を掛けたり、手紙を代読する支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの整理整頓や清掃を行い、安全・快適に過ごせるようにしている。居心地の良い空間作りに心がけ、利用者の嗜好に合わせてテレビのみでなく音楽をかける等している。外出にて季節感を感じることができなかった為、折り紙や飾り物等を利用者様と作成し掲示する等、目で見ても楽しめるよう工夫した。	利用者はリビングで過ごす時間が多い。換気、掃除は毎日職員と一緒にいき、安心・安全に過ごせるよう工夫している。行事毎の笑顔の写真や季節の飾りつけを一緒にいき、居心地よく過ごせるよう空調、音、光には配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性や身体的な能力に配慮し、それぞれが共有空間で過ごしやすような座席を考えている。ソファやリクライニングチェア、離れた場所へのテーブル設置等、それぞれの体調や気分に合わせて過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのものもあるが、これまで使用されていた物や馴染みの物等はご持参いただいている。面会の際等にご家族様と配置の相談をしたり、ご本人とも使い勝手等を確認しながら、心地よく過ごせるようにしている。	居室での家族との面会になり、行事毎の楽しいような写真を面会時に家族にも見てもらえるよう、部屋の壁にも飾り、ホームでの様子もお話している。居室は安全に過ごせるよう工夫され、掃除も職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーとなっており、安全に移動しやすくなっている。それぞれの能力を見極め、その方に合わせた声掛けや見守り、介助の範囲等を工夫している。また家事活動、入浴、排泄等利用者様がご自身でやりやすいような物の配置や掲示に工夫している。		